

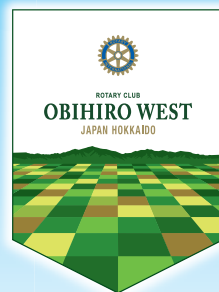


帯広西ロータリークラブ

第1987回例会

会報

2013.3.9



■RI第2500地区テーマ■

心と心、笑顔と笑顔、今奉仕のために行動を起こそう



■クラブ・テーマ■

学ぼうロータリー、訪ねようロータリークラブ

都市連合会(IM)

日時 3月9日(土) 開会式13:30~19:00
場所 ホテル日航ノースランド帯広

点 鐘

ガバナー補佐(帯広南) 伊藤 儀三

開会の辞

IM実行委員長 白岩 征之

国家斉唱

ソングリーダー 小川 芳勝

ロータリーソング斉唱

「奉仕の理想」

来賓挨拶

帯広市長 米沢 則寿 様

ガバナー挨拶

RI第2500地区ガバナー 櫻田 正弘 様



プログラム

特別講演「被災地の730日」

～ロータリーは東北で何が出来たのか?
いま何が出来るのか?～

講師 盛岡北ロータリークラブ
元会長 田口 絢子 様

本日は国際ロータリー第2500地区、第6分区のインターシティミーティングにお招きいただきまして有難うございます。

2011年3月11日、東日本大震災で東北の沿岸を襲った大津波は、尊い命や大切な家族を一瞬に奪い去りました。あの日から二年が経ちましたが、一向に捗らない復興に被災地の皆さまの気力も体力も限界にきているのではと案じます。そして、近づいた3月11日を、思い出したくない気持ちと、いやいやしっかり見つめて復興への一歩を踏み出さなければ、という二つの思いが胸の中で交差しているのではないのでしょうか。本日頂戴した時間の中で、できるだけ



730日を振り返ってみて、そしてロータリーとしてこれから何が出来るかを皆様と一緒に考えて行くことができれば、と思っています。

震災が発生した時は盛岡北ロータリークラブの会長でした。震災から数日後に沿岸の被災地を訪ね、知人が津波に流された事などを知り「その衝撃が730日の始まりだった」と涙ながらに語ってくれました。

一瞬にしてすべてを奪った震災に対して、怨むのではなく運命に耐え、助け合って生きていくその姿に、私はなんとしても被災地の為になにかしなければという使命感が湧きました。国内外のロータリークラブから、すぐに支援が届きました。すばやいロータリーの動きに驚き、感謝しロータリーのすばらしさを確認しました。

4月12日には緊急物資を満載したトラックがここ帯広から岩手県久慈に向けて出発、翌13日には久慈で待っているロータリアンのところへ無事に届けられ、そこから野田村、田野畑へご支援をいただきました。そのあとのご支援は、台湾に招待された子供たちへスーツケースを、初めてのお盆に着的喪服を集めていただきましたし、秋には馬鈴薯、とうもろこし、アスパラと北海道の味覚を沢山頂きました。私も、大船渡、陸前高田、釜石、大槌、山田、宮古、久慈、種市と被災したロータリークラブに届ける支援物資を車に積んで何度も峠を越しました。

沿岸のロータリークラブは例会場もクラブの歴史を記録した資料もすべて流されました。例会は開きたくても不可能の状態でした。そのような状況の中、なにかロータリーらしい支援はと考えた時、ふと、いま子供たちを元気つけるのは音楽ではと気付きました。それから被災地の教育委員会をまわり、被害の有った小学校中学校を探し出し、ピアノが流されたかどうか、残っていて使えるかどうか、ひとつひとつ聞いて回りました。

私の話を聞いた2500地区の財団委員長小船井様、副委員長笹谷様が、すぐさまWCSを通して交流のある2670地区と連携をとり、バンコク南ロータリークラブが国際パートナーになり、「ロータリー日本地震災害復興基金」に、マッチング・グラントの申請に動き出してくださいました。いままでも外国とのマッチング・グラントを40件以上も手がけてきた笹谷副委員長のおかげで、私にとっては初めてで戸惑うばかりの申請もスムーズに通じ、釜石東中学校、鶴住居小学校、唐丹小学校、大槌中学校、大槌小学校、大槌北小学校の6校に真新しいピアノが送られることになりました。2011年9月13日シカゴ国際ロータリーの広報担当の方が、田中作次会長がピアノ寄贈をするその様子取材したいとの申し出があり、北海道2500地区か

2013年 3月 識字率向上月間



会 長 川田 章博
幹 事 大友 広明

副会長 岡田 武穂
副会長 古田 敦則

会場監督理事 上垣香世子
プログラム委員理事 河西 智子

発行：広報委員会
委員長 鈴木 享 (副)本田美喜男



例会日/木曜日 12時30分~13時30分 例会場/北海道ホテル 帯広市西7条南19丁目1 (TEL 21-0001)
創立/1972年2月24日 事務局/帯広経済センタービル4階 TEL 25-7347 (直通) FAX 28-6033

ら増田ガバナー、足立パストガバナー、笹谷副委員長、四国2670地区からガバナー代理の飯パストガバナーをはじめ多くのロータリアンが見守る中、ピアノの贈呈式がおこなわれました。ピアノを弾く先生、式をする先生、子供たちの明るい歌声が体育館いっぱいに広がりました。私たちも最後に、子供たちと一緒にピアノを囲んで校歌やふるさとを歌いました。私たちは感動で涙を抑えることができませんでした。

国際ロータリー田中作次会長は「奉仕を通じて平和を」をテー

マに掲げられました。私たちの奉仕活動は、震災という大きな試練を乗り越え立ち上がろうとしている人々に、必ず平和をもたらすと信じます。

野田村に植えられたミズナラ、久慈に送られたオオヤマザクラ、しっかりと根付いているとご報告がありました。四月にはきっと美しい友情の花が咲く事でしょう。

ぜひ皆様でご訪問下さいというメッセージを託されてまいりました。この事をお伝えし話を終えます。ありがとうございました。

基調講演

「障がいのある方のスポーツに あなたもボランティアとして関わってみませんか」

講師 十勝地区障がい者水泳懇話会
代表 真田 正樹 様



真田先生は栄小学校校長を最後に退職された方です。本日は昨年ロンドンパラリンピックに出場をした札幌盲学校3年生の小野智華子さんについて、お話をさせて頂きます。平成6年に当時小学校に上がる前の年12月に全盲小野智華子さんと両親が真田先生の所に来られ一生に一度で良いから健常者の子供たちと一緒に水泳をさせてほしいと頼まれました。教育委員会に相談を致しましたが、okを出してもらえませんでした。しかし両親の熱心さに気の毒になり、日本赤十字社で行っていて私が教えているカッパ教室に来ませんか、そして夏休み中に何度か面倒を見て上げましょうと話をしました。

これが出会いです。そして小野智華子さんは帯広盲学校の一年生になりました。

私は栄小学校の教員でしたが、5月から8月の夏休みまで17日間教え何とかクロールと背泳が20m位泳ぐことが出来るようになりましたので、その年の12月に健常者の大会に出ましたが、倍くらいの時間が掛ってしまいました。これがスタートでした。

そして、両親も私も泣きました。母親から今後も教えてもらえないだろうかと、頼まれましたが、教え方もわからなく本もありません。しかし自分もここまでやってきたしこの子にかけてみようかと思い全国色々の所をたずね、指導の仕方等ビデオテープを送ったりして色々勉強をいたしました。ある時にはその指導を見ていた人が、あなたは鬼のようだと言われた事も有りました。また目の見えない者はプールに来ると言われた事もありました。本当につらい思いも致しました。そのような中で厳しい練習をした結果5年生の時には、パラリンピックの標準記録を突破し世界第3位の記録を出しました。

去年はロンドンパラリンピックで8位に成りました。すごいなと12年間教えてきた事が自分自身よくやったな、小野智華子もよくやったなと思いました。

本人も頑張ったけれど、この子を育てたおおかあさんの言葉から教わった事が三つ御座います。

- 1 智華子には障がいがあるが御座いますが、出来る事は山ほどあります。私はその中でスポーツをさせたいという事でありませぬ。
- 2 障がいのある人が水泳をしているのではないのです。水泳をしている人の中に障害のある人がいるだけなのです。

- 3 障がいのある事は不便な事です。しかし障がいのある人が可哀そうな人ではありません。周囲から可哀そうと思われる悔しさを知っていますか。可哀そうと言われる言葉の中に新たな差別観を含んでいる事を知っていますか。

見えない世界不便かもしれませんが、可哀そうとは別の話です。この様な事を私たちは知っていないと大変失礼な事をあたえてしまう、私はその様な事を感じました。

そこで皆さんも障害者にかかわってみませんか。障害者スポーツの指導は無理ですが、簡単なボランティア、それは何のスポーツでも結構なので障害者の応援に来てください。

ただ名前を呼ばれた時にワッと拍手で結構です。それだったらどれだけ子供たちが喜ぶか、それだったら皆さんにも出来ます。

今年10月6日に第10回目の障害者水泳大会を行います。

小野智華子さんはリオを目指して頑張っております。彼女はまだ18歳です。まだまだこれから伸びます。帯広から出た小野さんを皆で応援しましょう。有難うございました。

懇親会（友情の宴）

乾杯 パストガバナー 合田 賢二 様
開宴 アトラクション バイオリン・ピアノ演奏
木遣り 帯広若鶯会

ロータリーソング（手に手つないで）

ソングリーダー 小川 芳勝

閉会の言葉

帯広南RC会長エレクト 柴田 博美

